

“歯を守れ！ 予防歯科に命を懸けた男” 日吉歯科診療所・熊谷 崇の挑戦

医療法人すみれ おおくぼ歯科クリニック 歯科医師 永原 聡子

歯科医師になって13年経ちますが、自分の中にすり込まれている”歯”に対する間違っ
た感覚を改めて、著書を拝読し感じました。

お恥ずかしながら“8020運動”という言葉は、私が学生の時に授業の一環で知りました。
しかも、80歳で20本残ればいいほうなんだと、なんの疑いもなくその授業を受けた記
憶があります。

著書の中にもありましたように歳をとったから、歯が失われるのが当たり前という感覚
は全くおかしな考えであって、80歳で28本（もしくは32本）残すことを目標にする
ことが当たりの感覚にしていかなくてはならないと改めて思いました。

私自身は歯科医になって歯を残すことの意味を日々、臨床の中で理解しているつもりで
いましたが、（怒られそうですが）一方で歳をとれば歯が少なくなるのは当たり前と思っ
てしまっていたように思います。

これはやはり、自分の小さい頃からの周りの環境、教育にあると思いました。
虫歯になって当たり前、虫歯ゼロは表彰されるという小さい頃からの環境の中ですり込ま
れているもので、これらをまず私自身の中から払拭する必要があると思えます。
そして、私自身がすり込まれたように、これからの子供には虫歯になること自体が珍し
く、虫歯ゼロが当たり前になるように刷り込ませることもできるのではないかと思いま
した。

そのためにはやはり環境を整えていく必要があり、メンテナンスの意味、成果などを具
体的に示していかなくてはならないと思いました。

予防一つとっても、誰もがやらないといけないことはわかってはいるもののなかなかでき
ないものだと思います。

私自身も元々、学校の予習・復習が苦手な人間で、頭でわかっているにもかかわらず実行で
きませんでしたので、やらなくていけないものというより、自然に生活の一部のような
感覚になるように患者さんたちにはお伝えしていくことが私たち歯科医療人のあるべき姿
だと思います。

また、歯の大切さ、歯1本1本それぞれの存在の意味から理解するということが、歯を
残すことにつながる、当たりのことかもしれませんが、そのことに気づけていませんで
した。

メンテナンスの自費化についても、インフルエンザの予防注射に保険が利かないのは当
たり前になっていますが、まだまだメンテナンスに保険が利かないことに戸惑いを感じる
方も多いと思えます。こういったことも少しずつ理解していってもらわなければいけ
ないですし、理解してもらいたいと改めて思いました。

熊谷先生の、日吉歯科のされてきたことを見習って“歯を守る”という概念を変えてい
きたいと思えます。